

市長への提言 平成29年3月末日現在

件名	要旨	市の考え方	受付日	回答日	担当部署
学校規模等適正化について	小学校の統廃合を進めないで下さい。統廃合で校区が広がると通学時間が長くなり、特に低学年は危険だと思います。	学校規模等適正化の取り組みについてですが、小規模校では交友関係が限定されやすく、多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちであること、教職員数が少ないことによる学校運営への支障があることなどから、子どもたちの学習環境向上のため適正化の取り組みを行っております。通学路については、文部科学省の基準により適正な通学距離を設定し、ハード・ソフト両面から検証を行い、安全性の確保に努めてまいります。	2017/2/14	2017/3/10	教育環境整備室
少人数学級の実現について	子どもたちが、のびのびと学校生活ができるように少人数学級を実施してください。	本市の小・中学校の少人数学級編制については、さらに実施学年が拡大されるように今年度も、国・府に対して要望をしているところです。	2017/2/14	2017/3/10	教職員課
待機児童対策等について	待機児童対策として、小規模園が増えてはいますが、保育士不足が心配です。枚方で子育てしたいと言えるよう充実させてください。	本市では、潜在的な待機児童も含めた通年での待機児童の解消に向け、平成31年度当初までに500人の入所枠拡大を目指しております。その中で、保育士の確保策についても、保育士用宿舎の借り上げ費用の支援など、引き続き様々な方策に取り組んでまいります。	2017/2/14	2017/3/10	子育て事業課
自衛隊の宣伝行為について	非核宣言都市として、義務教育で自衛隊の宣伝行為を認めないでください。	本市の小・中学校において、自衛隊による宣伝行為は行っていません。	2017/2/14	2017/3/10	児童生徒支援室
高齢者の外出支援について	高齢者の外出支援事業は、「スルートKANSAI Kカード」の発売終了後も、新たな支援を続けてください。	平成29年度以降の高齢者の外出支援については、多角的な手法等を検討してまいります。なお、経過措置として2年間に限り、交通系ICカードを活用した公共交通機関の運賃助成を行います。	2017/2/14	2017/3/10	長寿社会推進室
粗大ごみ収集の予約について	市の粗大ごみ予約センターに十数回電話しましたが繋がらず、インターネットでも申し込みできる旨の音声案内が流れました。高齢者等、インターネットを利用しない人もスムーズに予約できるようにしてください。また、着信履歴で連絡をいただければ助かります。	お電話での予約は、普段から混み合っている時間帯と比較的つながりやすい時間帯があります。今後、予約センターにおける電話受け付け体制については、改善を進めてまいります。尚、予約センターで利用しているシステムでは、着信のあったお電話番号の履歴が記録に残らないことなどにより、折り返しのお電話を差し上げるのは困難な状況にあります。今回、いただきましたご意見を参考にサービスの向上に努めてまいります。	2017/2/20	2017/3/13	減量業務室
運転免許証自主返納者に対する支援について	他市では、運転免許証の自主返納者に対する交通費補助の費用を予算案に計上したようですが、枚方市では現在そのような施策は検討されていないのでしょうか。現行の高齢者のバス割引制度を運転免許証自主返納者にも適用するような施策を実施してください。	本市における高齢者の運転免許証自主返納促進の取り組みとしましては、交通費補助という形ではございませんが、写真付き住民基本台帳カードの発行手数料の減免等をこれまで行ってまいりました。高齢者バスの割引制度につきましては、平成28年度まで高齢者外出支援カード配付事業を行い、その後の経過措置として2年間に限り、公共交通機関の運賃助成を行いますが、本事業は経済的な理由により外出を控えがちとなる方を支援することで、要介護状態への進行を予防し、生きがいづくりと社会参加の促進を目的としているものです。今後も引き続き、高齢者の運転免許証自主返納促進に取り組んでまいります。	2017/2/21	2017/3/16	土木総務課 交通対策課 長寿社会推進室
香里ヶ丘図書館の建替えについて	地域の方から喜ばれる図書館づくりのため、建設準備の委員会や建設後の運営委員会に地域の住民や外部の専門家を入れていただけないでしょうか。	香里ヶ丘図書館の建替えにつきましては、市民説明会等で出された意見を反映した「香里ヶ丘図書館建替え基本計画」に基づいて進めてまいります。図書館という専門性の高い施設の設計につきましては、これまでいただいた市民意見も踏まえながら、ノウハウを持った設計事業者と行政が検討を重ねて案を作成し、平成29年秋から冬にかけての基本設計が完成する前に市民意見を聞く機会を設けたいと考えております。尚、図書館運営につきましては、学校教育及び社会教育関係者、家庭教育の向上に役立てる活動を行う者、並びに図書館を含む学識経験者で構成される枚方市社会教育委員会にて、意見聴取を行っております。	2017/3/1	2017/3/14	中央図書館

<p>難病患者の就労支援について</p>	<p>指定難病にかかっていますが、症状も治まっておらず就労可能な状況ですが、正社員として採用されにくいように感じています。難病患者は、「障害者雇用制度」の雇用人数に数えられず、中途半端な状況です。「指定難病患者雇用制度」を枚方市の条例で作っていただけないでしょうか。</p>	<p>平成23年に「障害者基本法」が改正され、障害者の定義に難病患者も含まれたところですが、難病患者の方は障害者手帳所持者に比べますと、制度やサービスにおいて遅れている点があることは認識しております。「障害者雇用促進法」において、障害者雇用率が未達成の企業に対しては「障害者雇用納付金」が課せられていますが、法定雇用率達成企業の割合が半分にも満たないのが現状です。このような状況を鑑みますと、本市独自で「指定難病患者雇用制度」を条例制定した場合においても、障害者雇用率に算定されない難病患者の方の就労について、効果は非常に限定的であると思われる。本市としましては、雇用側に対して障害者のみならず難病患者の方の特性等について啓発、周知を行うなどして雇用促進を図ってまいります。</p>	<p>2017/3/3</p>	<p>2017/3/17</p>	<p>障害福祉室</p>
<p>大地震に備えた防災訓練について</p>	<p>防災訓練の際には、避難所の運営について訓練してほしいです。災害時には行政も人員不足になると思うので、小学校区で事前に具体的な組織体制の役割分担等について想定し、担当を決めておく必要があると思います。</p>	<p>お住まいの小中学校区では、本市の避難所運営マニュアルをもとに、校区独自の避難所運営マニュアルを策定され、ご提言の訓練内容について実施し、訓練を通じて内容の改善や地域防災力の向上に熱心に取り組まれています。しかしながら、防災は「ここまですれば大丈夫」、「これで安心」といった類のものではなく、継続的な見直しや検討が必要であると考えます。また、日頃から防災意識を持つことや実践的な防災訓練の実施は大変有意義なことであり、地域の安全・安心を真剣に考えていただいておりますことに感謝いたします。</p>	<p>2017/3/13</p>	<p>2017/3/28</p>	<p>危機管理室</p>
<p>交通事故について</p>	<p>家の近くの交差点で小さな事故が頻繁に起こっています。一旦停止の白線が消えているのが原因ではないかと思っておりますので、対処いただきますようお願いいたします。</p>	<p>ご提言をいただいた当該交差点及び一時停止の場所の確認をするとともに、交差点で発生している事故の状況を確認したところ、出合頭事故が多数発生していることがわかりました。一時停止の路面標示については警察署が所管する交通規制標示であるため、塗り替えを早急に行うよう市から警察署に要請いたしました。</p>	<p>2017/3/15</p>	<p>2017/3/15</p>	<p>交通対策課</p>
<p>信号機の設置について</p>	<p>自宅近くの横断歩道を渡るのが怖いので、押しボタン式信号機を設置してほしいです。</p>	<p>信号機の設置は警察署が所管しており、押しボタン信号の設置について、枚方警察署の交通課に確認しました。警察からの回答は、当該路線の交通量は多いものの、横断する歩行者の交通量が少なく、押しボタン信号の設置は困難であるとのことでした。尚、信号機の設置については、地域の交通環境に関わることから、個人の意見だけでは設置は困難であり、地域の合意形成を図ったうえで、自治会等から警察に対して要望を出していただくことが必要となります。</p>	<p>2017/3/29</p>	<p>2017/3/31</p>	<p>交通対策課</p>
<p>ひらかた体操について</p>	<p>ひらかた体操は、高齢者だけを対象にするのではなく、枚方市民全体に普及しなくては意味がないのではないのでしょうか。</p>	<p>ひらかた体操は、高齢者が介護予防活動に取り組むひとつの媒体として作成されました。昨年6月には、ラジオ体操第1、ロコモ体操、ひらかた体操を組み合わせた「ひらかた元気くわんか体操」を作成し、地域での介護予防活動の推進・普及を13の地域にある地域包括支援センター等と協力体制を組み進めています。このような取り組みを高年齢者中心の活動グループから始め、地域行事等の世代間交流の場において「ひらかた元気くわんか体操」を活用いただくことにより、世代を越えて地域活動の広がりになることと考えます。今後は、「高齢者中心」から「高齢者とともに」地域で普及していく方向性を加えてまいります。</p>	<p>2017/3/30</p>	<p>2017/3/31</p>	<p>長寿社会推進室</p>